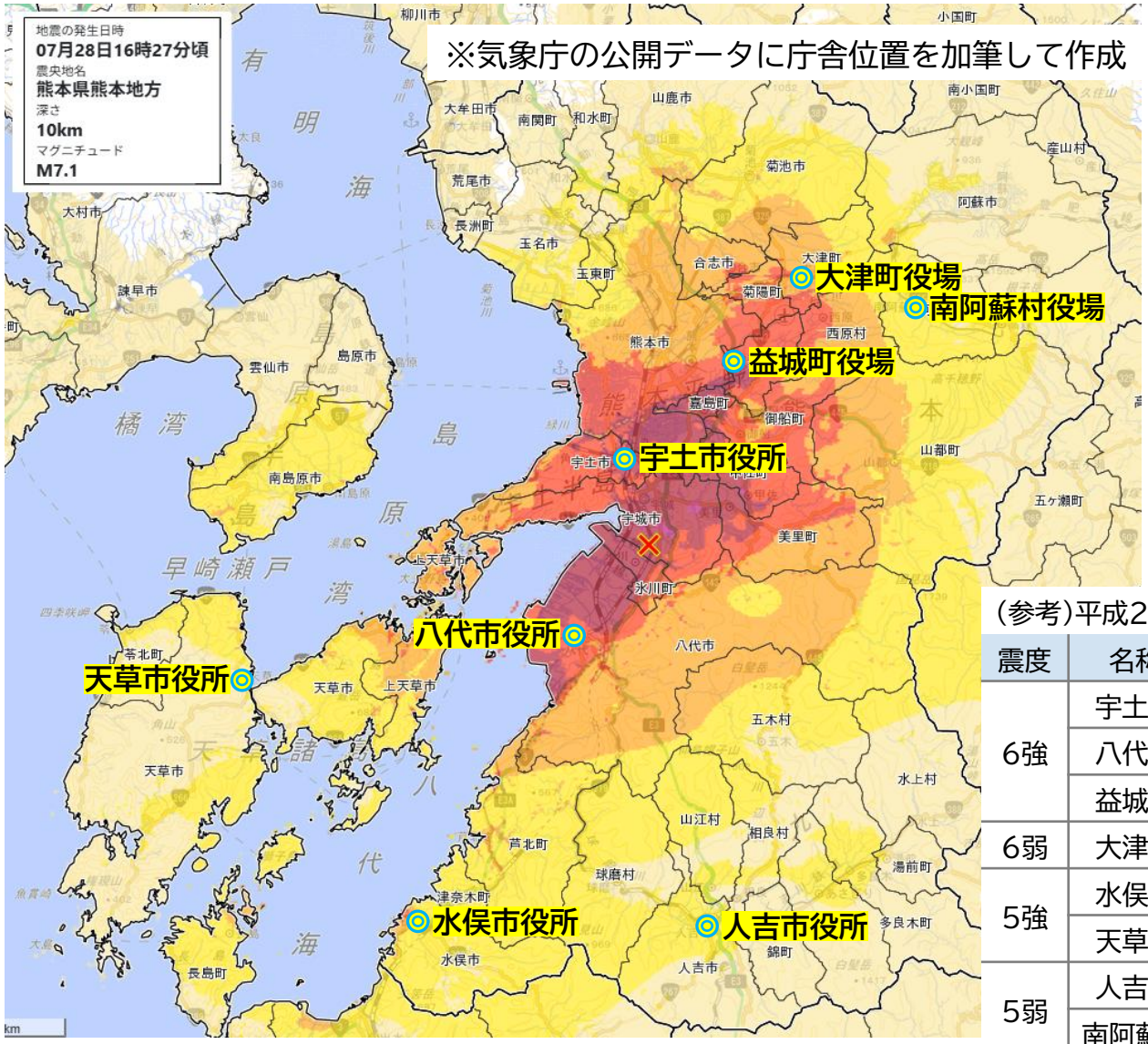
参考資料１　令和８年熊本地震を踏まえた構造形式の考え方

（１）推定震度分布図と平成２８年熊本地震以後に完成した市町村庁舎



（参考）平成28年熊本地震以後に完成した市町村庁舎（震度5弱以上）

震度	名称	竣工年	構造形式等	
6強	宇土市	2023年	免震	地上4階　RC
	八代市	2022年	免震	地上7階地下1階　S造
	益城町	2023年	免震	地上4階　RC造一部SRC造S造
6弱	大津町	2021年	免震	地上4階　RC造一部S造
5強	水俣市	2021年	免震	地上4階地下1階　S造
	天草市	2019年	免震	地上4階　RC造
5弱	人吉市	2022年	免震	地上5階　RC一部S
	南阿蘇村	2017年	耐震	地上2階地下1階　RC造

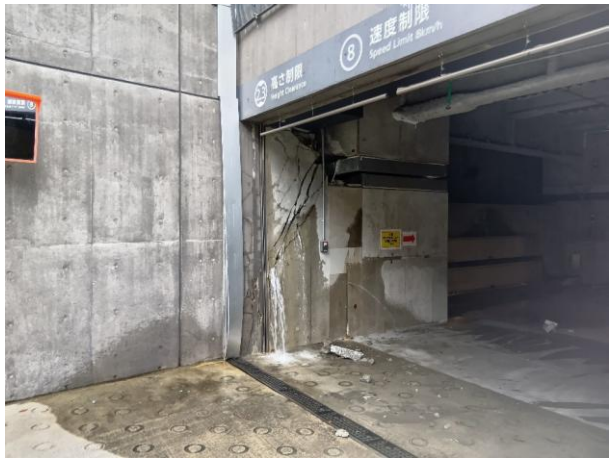
平成２８年熊本地震以後に完成した庁舎では、八代市を除き大きな被害は発生していない。

参考資料１　令和８年熊本地震を踏まえた構造形式の考え方

（２）八代市役所の被害状況

八代市より提供

◆構造形式　免震　地上7階地下1階　S造　◆免震形式　地下1階柱頭免震（クリアランス　60cm）



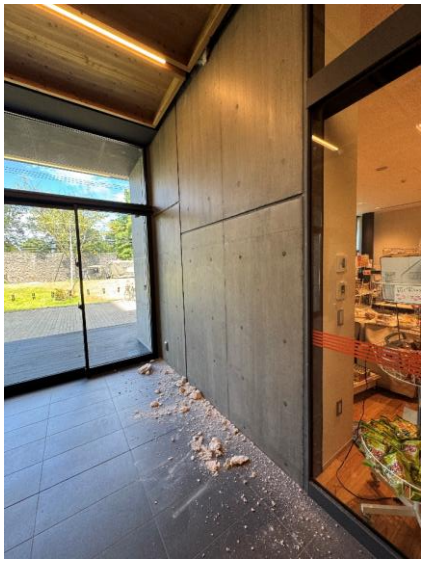
地下駐車場出入口



地下駐車場西側壁



免震装置



売店横天井



ATM機上部壁



3階西側階段室

参考資料１　令和８年熊本地震を踏まえた構造形式の考え方

（３）新庁舎での対応

八代市役所（免震建物）の主な被害

①　積層ゴム支承の損傷
支承材の限界変形を超える大きな変形によると考えられる

②　鋼材ダンパーの残留変形
ねじれを伴う免震層の残留変位が生じた為と考えられる

③　上部構造の擁壁衝突
設計上のクリアランス（周囲の構造物との水平距離：60ｃｍ）を超える免震層の応答変位によるもの

「令和8年（2026年）熊本地震による免震建築物の被害調査報告（速報）」
（国土交通省国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人建築研究所）より引用

原因：設計想定を大きく超えた地震

- **大きな変形に対応可能な免震支承やダンパーの選定の検討**
- **フェイルセーフ※の導入検討**

など

※フェイルセーフとは・・・
設計上の前提を超える災害が発生しても、建物の倒壊や致命的な損傷を最小限に抑えるためのしくみのこと

今後の八代市の補修状況等も参考に、設計段階で具体的な対策について検討を行う